

2012年度 事業報告

*2012年度事業計画に対する評価

- ・総合計画の第4期中期3カ年計画が予定通りの成果をもって無事完了した。施設運営は、①ミッションマネージメントを意識したこの総合計画と、②新しい保育所指針をベースに神視保育園独自の保育指針・保育課程・指導計画等を策定。③「ほいくの窓」によるパブリックポリシーの3本柱で運営してきた。
- ・第4期中期計画では、特に省エネエアコン・省エネガス冷凍冷蔵庫、LED電灯・Wエコ電灯等の導入や「もったいない運動」で、温室効果ガスと電力コストを2006年度比33.2%削減した。(エコ推進事業所に認定された)2009年に導入したデマンド監視システム装置が、節電効果に好結果を与えている。
- ・職員の定着が良いことと、新卒以外に途中採用や派遣職員を採用したことがないのは、保育士の質的な成長にとって好ましい人的環境と思われる。定着率が高いので国の民改比率は12%となった。
- ・財政的には、定員割れがあったものの、2歳児が多かったことと、民改比率12%により、運営費収入は増えた。特にすこやか保育は、神戸市の民間保育園で一番多く、補助金額が大きかった。結果的には収支バランスはとれ、人件費積立金に500万円の積み増しをした。
また、2013年度の前倒しで、誘導灯全館LED化、砂場改修工事、光電話と電話器取替工事、おむつ収納庫設置等の修繕改修工事、パソコン2台・プリンター、等の備品購入を実施した。

*2012年度決算に対する評価

- ・財務諸表を見てもわかるように、願っていた決算数値となった。
- ・在園児調査の項で記載したように定員120名に対し、定員割れが続いているが収支バランスはとれている。今年もすこやか対象児(障害児)9人の認定となり、補助金が予定より多かった。家庭支援補助金も継続してもらえた。新制度スタート時に補助金等の見直しがあると思う。そのためにも積立金を強化したい。
- ・そのために、今年度は、人件費積立金に500万円の積み増しをした。
- ・2013年度から2カ年施設長未設置運営費単価になるので、今年度で改修工事や備品購入等を積極的に実施し、次の2カ年に負担が少なくなるよう配慮した。
- ・天隣からの保育単価の高い2歳児を確保することが、神視保育園の財務状況にとって非常に重要。2013年5月時点では、2歳児30名の入所が確定した。

(その他主な施設の運営に関すること)

- ・2012年4月に過去6年間にわたり、決算書を中心に会計検査院の監査があった。特に積立金の取り崩しや法人繰入の際に、神戸市子育て支援部との事前協議書及び理事会記録を中心にチェックがあったが、6年間の収支分析表等の書類が整っていたので、指摘事項はなかった。
(法人本部への繰入の件と、繰越金と積立金合計が運営費総額の30%を超えていたので、その理由を聞かれた)
- ・すこやか対象児(障害児)他、気になる子どもや保護者(パニック症候群、統合失調症、薬物依存症等)が多く、また、2012年度入所の2歳児は、70%がAB階層であった。特に保育園と社会資源(子ども家庭センター、警察、本庁及び長田区の子育て支援部、長田区のソーシャルワーカー、丸山学園、養護施設、小学校等)のネットワークができており、子どもと家庭支援は、保育を通じて総合的に実施されている。
- ・保育制度改革による認定子ども園については、現時点では、地域と保育園の現状から児童福祉施設としての保育園として位置づけることが望ましいと考えている。(2013年度から本庁に新制度に対応するセクションが誕生した)